ばら通信

2013.01.29発行

〒010-1638　秋田市新屋表町8-5
☎018-828-7750　Fax018-828-8185

社会福祉法人グリーンローズ
「ことば」の教室
オリブ園
インクル

新年
ワークショップ11

新年

オリブ園　施設長　　後藤　進

新しい年が始まりました。今年はどんな年になるのか、誰も分からず、希望や不安が入り交じった新年のような気がします。これまで生命は、私たちの親、祖父母、またその親や祖父母と綿々と続いてきたのに違いありません。自分という存在を考えた時、この地球上で生命が発生したときから、一度も絶えることなく続いてきた生命だと思うと不思議でなりません。そうしたことを考えると、この世界はあまりに争いや対立に充ちているとしか思えません。自分の生命、他者の生命に心をめぐらす時、もっと豊かな出会いがあるようにと、願わずにはいられません。

下の図は、ネットの日本国際飢餓対策機構（JIFH=Japan International Food for the Hungry）のHPからとったものです。

次の数字や記号は、何を意味しているのでしょう。
数字から飢餓について考えましょう。

70億 ・クリック!	10億 ・クリック!	6秒 ・クリック!	世界の総人口	世界で飢餓に苦しんでいる人の数	6秒間に一人の子どもが飢餓が原因で命を落としています
32% ・クリック!	180個 ・クリック!	180kg ・クリック!	サハラ以南のアフリカの栄養不足人口	500円で買えるパンの数 中南米ボリビア	一人一年に必要な穀物の量
23億トン ・クリック!	2000万トン ・クリック!	41% ・クリック!	2011年の世界の穀物生産量70億人で分けると一人330kg食べられます。	日本の年間食物廃棄量 一人当たり150kg 日本の年間輸入量の35%	日本の食料自給率（平成20年度） 半分以上が外国から買ったもの

答えです

この数字をみますと、私たちの地球がいかに不条理と不公平に出来ているか教えてくれます。
新しい年が、私たちだけでなく、世界の子どもたちに豊かさが届くように願い、少しでも良い方向に向かうための道を探る必要があると思います。私たちの力は小さいものですが、思うことは誰でも出来るのではないでしょうか。思うだけでも、世界は変わってゆくと確信しています。

日本は新政権になって、子どもたちに目を向けていくことが出来るでしょうか。子どもたちが一人の人間として確かな人権を持っていることを認識することが、今程求められている時はないのではないでしょうか。共に生きる世界、共に育つ世界、そこが基本となる世界をめざしていってほしいと願っています。

よい年でありますように！

二面はワークショップ報告です。

何かありましたら誰にでも連絡・相談

E-mail　olive@kodomo-sekai.com
ホームページ　http://www.kodomo-sekai.com

ワークショップ　11

「子どもの立場に立った支援」 ーー虐待をめぐってーー

心身障害児総合医療療育センター　外来療育部長

平成25年1月26日（土）に開催されました。　**米山　明　先生**

平成25年1月26日（土）に、ワークショップとして、上記の講演会を開催しました。米山明先生は東京の心身障害児総合医療療育センターの外来療育部長で、日本の第一線で活躍をされておられる小児科医です。猛吹雪のためか参加された方が少なかったのですが、より濃密な講演会となりました。深刻なテーマではありましたが、より前向きなたくさんのお話を聞くことが出来ました。資料がありますので、欲しい方は申し出て下さい。

児童虐待、支援考える
話聞く姿勢示して
子どもに安心感を
新屋で講演会

児童虐待について考える講演会が26日、秋田市新屋のルーテル愛児幼稚園で開かれた。心身障害児総合医療療育センター（東京）で外来療育部長を務める米山明さん（56）が「子どもの立場に立った支援」と題し、虐待を受けた子どもへの支援方法などを紹介。「親だけでなく、社会全体で子どもを育てることが大事」と強調した。

同市の社会福祉法人グリーンローズ（後藤進理事長）などが、児童虐待への理解を深めてもらい、虐待を予防することを狙いで開催。保護者や医師、特別支援学校の教師ら32人が耳を傾けた。

米山さんは、児童虐待が全国的に増加傾向にあり、母親による育児放棄（ネグレクト）、病気の子どもに治療を受けさせない医療ネグレクトなど、虐待が多様化している現状を紹介。「親がテレビや携帯電話に夢中になることは、小さなネグレクトになり得る。子どもと常にコミュニケーションを取ってほしい」とした。

虐待された子どもへの支援については「保護された子どもに安全な環境であると知らせ、安心させることが必要」と指摘。具体的には、話をきちんと聞く姿勢を示すほか、ほほ笑みかけたり、褒めたりすることなどを挙げた。（佐々木真弥）

米山　明　先生

子どもの立場に立った支援

虐待された子どもへの支援などを紹介した講演会

2013.01.28

グリーンローズ親の会のご協力
ありがとうございました。

アンケートから（多くのアンケートの一部分です。）

米山先生の講演とてもすばらしかったです！！　雪の中、がんばってきたかいがありました。親だからしっかりしなくてはいけないと、ついついしかってばかりいました。子供にもっと自信をもたせるようにほめてほめまくりたいと思います。勉強になりました。

虐待を受けた子どもの写真やレントゲン写真が衝撃的だった。障害をもつ子どもの兄弟も含めて良く見ていかなければというお話に、なるほど―と思った。

重いテーマにもかかわらず、楽しくあたたかなお話でうれしくなりました。米山先生の表情、声、語り口がとてもよかったです。内容も、「ほめる」ことの大事さと難しさをあらためて認識して、細やかな具体的なほめ方を勉強させていただきました。

ボリュームのある内容で聴きごたえがありました。ほめ方など参考にしたいと思います。時間が短縮されてしまい残念でした。今回のテーマである虐待に関して（ゆさぶられ症候群など）事例をもとに脳への影響やそれが身体にどう現れるか、また、予後など詳しくお聞きできればうれしく思います。ありがとうございました。

E-mail　olive@kodomo-sekai.com
ホームページ　http://www.kodomo-sekai.com

何かありましたら誰にでも連絡・相談